

新型コロナウイルスの感染対策において、日本は2月にクルーズ船隔離停泊以来、国内外からの批判にさらされてきた。しかし、緊急事態宣言からおよそ一か月半で流行はひとまず収束を見せた。5月25日、世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は、日本が新型コロナウイルスの感染者数や死者数の抑制に成功した、と評価した。その後、日本に対する世界の認識が改められつつある。それは、日本の感染死亡率が突出して低いからである。G7においては最低レベルである。

海外メディアでは「新型コロナウイルスとの闘いで、日本はすべて間違っただけをしてきたように思えた。ウイルス検査を受けたのは人口の0.19%にすぎず、ソーシャルディスタンス（社会的距離の取り方）も中途半端だ。国民の大多数も政府の対応に批判的である。しかし、死亡率は世界最低（水準）で、医療崩壊も起こさずに感染者数は減少している。不可解だが、すべてが正しい方向に進んでいるように見えてしまう」などと論評されている。

また、あるスウェーデンの方は、母国スウェーデンと比較し、いかに日本のコロナ対策が成功を収めているかを、自らの実体験をもとに記している。彼の母国スウェーデンの死亡率は、日本の2倍、3倍どころではなく、63倍という。そして、国際的水準で死亡率を最小限に抑えているのは、世界トップクラスの医療ヘルスケア専門家による科学的なアドバイスに基づいた日本の政策と対応だ、日本はこれまでの成果を誇りに思うべき、と述べている。

まだ最終的な結果が出たわけではない。しかしながら、日本人はいつも自らに対する評価が低いと思う。世界では、どの国に行っても、日本人に対する評価がとても高いという。「日本人は勤勉で礼儀正しく、親切で清潔である。先の大戦で原爆を二度も落とされ、完膚なきまで叩かれたのに復興を果たし、経済大国になった。世界のどこにもない平和憲法を守ってきた」このように世界は日本を高く評価しているのに、日本人は自分たちに自信がなく、世界貢献もしていないと思いついているところがある。いまだに感染者が出ている状況とはいえ、科学的検証の下、日本は驚くべき成功を収めていることを認めてもよいのではなかろうか。

その一方で、命を落としている方がいることも忘れてはならない。このコロナ禍がなければ、違った人生になっていた方もいるはずである。この状況でなければ、命を落とすことはなかった方がいるのは確かなことである。

ある進化生物学者は、ヒトは本来助け合う生きものとして進化してきたと述べている。ヒトの身体が進化によって適応的につくられたように、ヒトのこころもまた進化したそうである。ヒトほど他者と協調し、協力し、援助する生物は他にはいないとのことである。

では、なぜヒトは、このように進化したのだろうか。それは、ヒトにこころがあったからだそうである。

このコロナ禍によって際立ったのは「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる、医療介護、スーパー・小売り、清掃、郵便・宅配、保育など人間が社会生活を維持する上で不可欠な仕事に従事する人たちの献身的な働きである。他者を思いやる人々の働きのおかげで私たちは生き延びることができている。そのことに思いを巡らせ、心から最大の敬意と感謝を贈りたい。